様式第１号（第１０条関係）

２０２３年度業務実績報告書

提出日 2024 年 1 月 4 日

１．職名・氏名　特命教授・米田　誠

２．学位　　学位　医学博士、専門分野　脳神経内科学、授与機関　新潟大学、授与年　1990.11

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 臨床病態学Ⅰ（1 単位 毎年開講）看護学科 1 年生　(2023 年度)
②　内容・ねらい 適切な看護を展開するために必要な疾患の病態を把握する能力を修得することを目的とし、各種の疾病に関する基礎的知識と臨床病態を講述した。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 臨床病態学Ⅱ（1 単位 毎年開講）看護学科 1 年生　(2023 年度)
②　内容・ねらい 適切な看護を展開するために必要な疾患の病態を把握する能力を修得することを目的とし、各種の疾病に関する基礎的知識と臨床病態を講述した。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 臨床病態学Ⅲ（1 単位 毎年開講）看護学科 2 年生　(2023 年度)
②　内容・ねらい 適切な看護を展開するために必要な疾患の病態を把握する能力を修得することを目的とし、各種の疾病に関する基礎的知識と臨床病態を講述した。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 臨床病態学Ⅳ（1 単位 毎年開講）看護学科 2 年生　(2023 年度)
②　内容・ねらい 適切な看護を展開するために必要な疾患の病態を把握する能力を修得することを目的とし、各種の疾病に関する基礎的知識と臨床病態を講述した。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 微生物・免疫学（1 単位 毎年開講）看護学科 2 年生　(2023 年度)、オムニバス。
②　内容・ねらい

微生物では、将来、看護師、保健師、養護教員として医療・保健に従事する皆さんが、知っておいてほしい感染症の基礎的知識と臨床上の問題点と対応について講義した。
　また、病原体に打ち勝つ体内のメカニズムが免疫である。免疫が弱くなり様々な感染症が引きおこされる。逆に、免疫が過剰になると、アレルギーや膠原病といった全身の病気を発症する。免疫の基礎的メカニズムとその破綻による疾病についても講義した。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
臨床薬理学（1 単位 毎年開講）看護学科 2 年生　(2023 年度)、オムニバス。

②　内容・ねらい
薬が生体に働く作用（薬理作用）を分子レベルで解説した。同時に、薬が生体に吸収された後、どのように代謝され体外に排泄されるか（薬物の体内動態）についても併せて講義を行う。さらに、病院薬剤業務、薬による副反応や健康被害に関しても取り上げた。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
研究倫理特論（２単位 毎年開講）健康生活科学研究科（博士後期）１年生　(2023 年度)、オムニバス。

②　内容・ねらい
研究者として誠実で責任ある研究を推進していくために必要な研究倫理について講義した。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
健康バイオマーカー演習（４単位 毎年開講）健康生活科学研究科（博士後期）１年生　(2023 年度)、オムニバス。

②　内容・ねらい
健康と密接に関連するフレイル、運動、睡眠、食事、活性酸素などを評価するバイオマーカーについて、測定手技、評価法などの実践的アプローチを演習するとともに、関連論文の抄読、ディスカッションをとおして探究する。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面演習時には、具体的な実験器具を用いて指導し学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った

(2)その他の教育活動

内容
<非常勤講師>
・加齢と老化　福井大学医学部医学科 4 年生（2023 年度）

４．研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

1. 米田誠．遺伝子異常．Nursing Graphica 「病態生理学」．編集　山内豊明，メディカル出版，2023.1.
2. 米田誠．橋本脳症．「自己免疫脳炎ハンドブック」．編集　下畑享良，金芳堂，2023.5.
3. 米田誠．MELAS とはどのような疾患ですか．「ミトコンドリア診療マニュアル 2023」．編集　村山 圭，小坂 仁，三牧正和．診断と治療社，東京，2023.6.

【３本】

③ 学術論文（査読あり）

1. Matsunaga A, Ikawa M, M Yoneda. Expanding clinical spectrum from Hashimoto's encephalopathy to anti-NAE antibody-associated disorders (NAEAD). Clinical and Experimental Neuroimmunology (CENI) 2023.

【１本】

③その他論文（査読なし）

1. 井川正道，岡本裕嗣，米田誠．ミオクローヌスを伴うミトコンドリア病（MERRF），先天代謝異常症診療 UpDate. 2023
2. 米田誠. Proceeding of Taurine Conference, 2023.

【２本】

④ 学会発表等

1. Makoto Yoneda, Rinako Nakayama, Akiko Matsunaga, Kazuyoshi Togashi. New method to detect a diagnostic marker anti-NH_2- terminal of α- enolase autoantibody for Hashimoto's encephalopathy. 2023 AAN Annual Meeting on Apr 22 – 27, Boston、USA.
2. 矢口裕章，工藤彰彦，野村太一，江口克紀，田中惠子，米田誠，木村暁夫，下畑享良，矢部一郎．本邦における自己免疫性小脳失調症レジストリ作成と診断基準作成の試み．日本神経治療学会．令和 5 年 11 月，東京。

【２件】

⑤ その他の公表実績

1. 米田誠．第 9 回国際タウリン研究会日本部会　特別講演．福井市．令和 5 年

【1 本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】

<文科省科研費>

1. 自己免疫性脳炎における抗神経抗体の CBA に代わる新規迅速・定量的測定法の開発．日本学術振興会　科学研究費助成事業　基盤研究(C)．分担（代表：松永晶子）
2. 独居高齢者の社会的支援を介入した在宅運動のアドヒアランスとフレイルの予防改善効果．日本学術振興会　科学研究費助成事業 基盤研究(C) 分担（代表：平井一芳）

<厚生労働省研究費>

3. 超希少難治性疾患である免疫介在性小脳性運動失調症の疾患レジストリ構築および治療法確立を目的としたエビデンス創出研究　厚生労働省　難治性疾患実用化研究事業（AMED）分担（代表：矢口裕章）

【学内】

1. 令和 5 年度〔戦略的課題研究推進支援〕精神疾患に潜む治療可能な「橋本脳症」の実態解明と診断・治療指針作成－福井県の精神医療・認知症診療の向上をめざして―．代表.
2. 令和 5 年度〔個人研究推進支援〕統合失調症に潜む橋本脳症の臨床画像的特徴の解明と免疫療法の評価．代表.

(3)特許等取得
なし
(4)学会活動等
1.　米田誠．査読委員．第 64 回日本神経学会学術集会，千葉．

５．地域・社会貢献活動

①国・地方公共団体等の委員会・審議会　（それぞれの名称、業務内容、担当期間） ・福井県高次脳機能障害支援普及事業委員（平成 26～現在に至る） ②兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動 ・神経内科専門医が不足している地域における神経難病・認知症患者の診療による医療貢献（社団医療法人中村病院，社団医療法人木村病院） ③その他 ・福井県てんかん談話会（世話人） ・福井県脳機能画像研究会（世話人） ・北陸神経内科談話会（世話人） ・中部老年期認知症研究会（世話人） ・神経科学研究会（世話人）［全国］

６．大学運営への参画

(1)補職
看護福祉学部長・看護福祉学研究科長（修士）（平成 31 年 4 月～現在） 健康生活科学研究科長（博士後期）（令和 5 年 4 月～現在）
(2)委員会・チーム活動
・教育研究審査会　委員（学内） ・部局長会議　委員（学内） ・教育研究委員会　委員（学内） ・入試制度検討委員会　委員長（学内） ・地域連携本部　委員（学内） ・利益相反審議委員会 委員長（学内） ・輸出管理委員会　委員（学内） ・研究公正委員会　委員（学内） ・大学院委員会　委員（学内） ・保健管理センター（学校医） ・学生献血サークル「オープン・ザ・セサミ」顧問
(3)学内行事への参加
・オープンキャンパス運営・学部長の言葉
(4)その他、自発的活動など